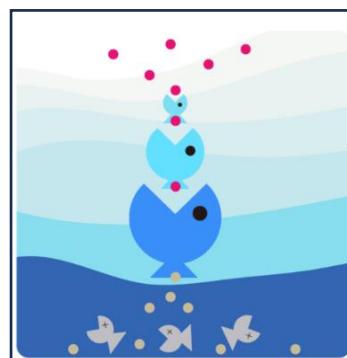
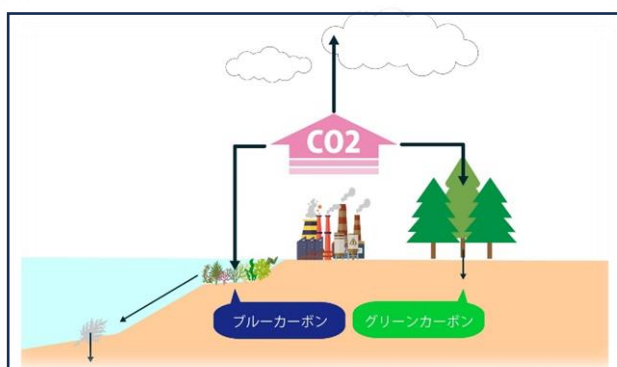


グリーンカーボンとブルーカーボンの違いを知ろう！

最近カーボンオフセットとか・・・いろいろなところで「カーボン」という言葉を聞いたり見かけることが多くなっていませんか。

そんな中で「グリーンカーボン」「ブルーカーボン」という言葉も聞くことがあるかと思いますが、違いご存じでしょうか。簡単に言うと陸と海の違いです。

陸上の植物が光合成で二酸化炭素を取り込んで固定するのがグリーンカーボン、海藻などの海洋生物によって二酸化炭素を取り込んで固定するのがブルーカーボンと読んで分けています。なんと、生物が排出した二酸化炭素のうち、グリーンカーボンで吸収されているのが12%で、ブルーカーボンで吸収されているのは30%にもなると言われています。



ブルーカーボン生態系は、①マングローブ林、②塩性湿地、③藻場、④サンゴ礁の4つに分類されていて、海岸線の総延長が3万5000kmにもなる日本では、広範囲に渡って分布する藻場のコンブやワカメ、アマモ類などによる二酸化炭素の吸収が期待されているらしいです。

でも何故海の方が二酸化炭素の吸収（固定量）が多くなるのでしょうか。

実は、海の中で運ばれた二酸化炭素は、最終的に生物のフンや死骸に含まれて、暗くて冷たい有機物がほとんど分解されない深海に沈むため、半永久的に貯蔵されることになるんです。

BUT !

二酸化炭素が大気中が増えることで、大気から海水に吸収される量が増えることで、

「海洋酸性化」が進み、海洋生物に異変が起ることによってブルーカーボンの仕組みがうまくいかなくなってしまうんです。

つまり、グリーンカーボンの仕組みを守る活動と、ブルーカーボンの仕組みを守る活動は切っても切れない関係にあるということなんですね。

自分たちが今取り組んでいる二酸化炭素削減活動は、どちらに大きく影響を与えているのかを少し考えてみるのも楽しいのではないのでしょうか。

(出展及び参考：カンキョウダイナリー (大昭和紙工産業株式会社運営))

※ (特非) サンクチュアリエヌピーオーでは一般公開自然観察会なども開催しています。